

福岡市 洪水ハザードマップ

保存版
発行日
令和3年6月

大洪水から
あなたの家族と
いのちを守る

「福岡市洪水ハザードマップ」は、想定される最大の大雨によって河川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域や避難所の位置を地図に示したものです。このハザードマップは、想定される最悪の洪水においてあなたとあなたの家族の命が守られることを目的に作成しています。

また、より発生する確率の高い、中規模の大雨によって河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域についても別途公表しています。中規模の大雨に対する警戒避難や、企業における業務継続計画の作成については、こちらもご利用ください。

その他のハザードマップ

土砂災害 高潮 ゆれやすさ 津波

総合ハザードマップ

各種災害リスクをインターネット上で一元的に確認できます。地域や家庭における防災・減災のため、身の周りの災害リスクや避難経路等の確認にご利用ください。

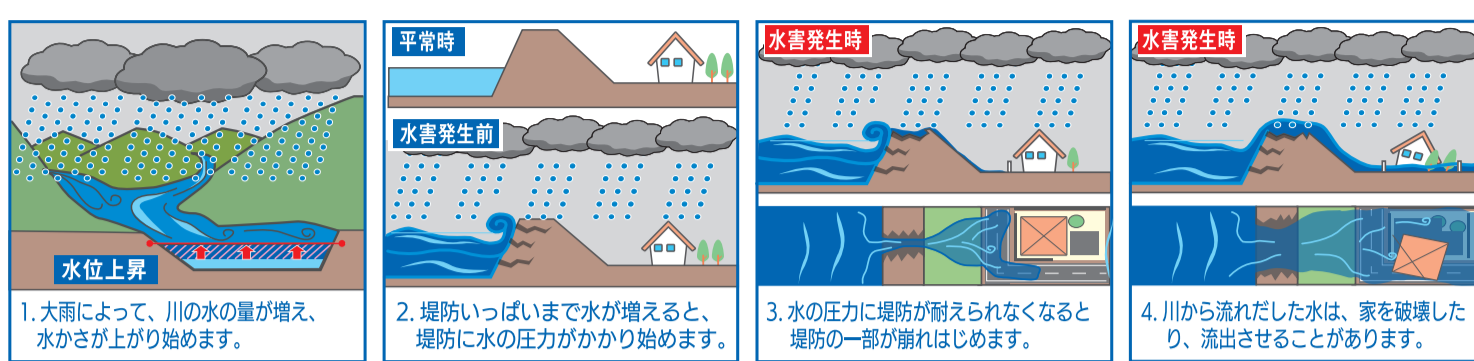
【各種ハザードマップURL】 <https://webmap.city.fukuoka.lg.jp/bousai/>

【編集発行・問合せ先】
福岡市市民局防災・危機管理部 防災推進課 〒810-8620 福岡市中央区天神 1-8-1 TEL 092-711-4153

■ 洪水を学ぶ ~正しい知識を身に付けよう~

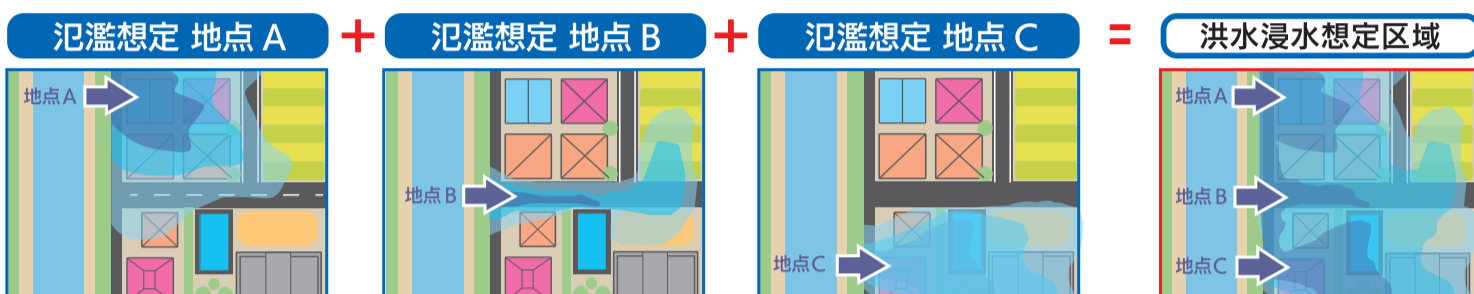
■ 洪水発生メカニズムとは？

洪水とは、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越える（越水）などして起こります。



■ 洪水浸水想定区域とは？

洪水浸水想定区域とは、河川の氾濫により、浸水が想定される区域です。また、下図のように、全ての氾濫想定地点（堤防の決壊等が想定される地点）から、どのように氾濫、浸水するかを予想して、全ての予想結果を重ね合わせて最大となる浸水の区域、深さを表示しています。実際の洪水では、氾濫想定地点のうち、いずれかの箇所でも氾濫が発生し、浸水が広がっていきます。



■ 都市型水害の特徴とは？

都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいので、川や水路、下水道に一気に集まる場合があります。次のような都市特有の水害による危険があるので注意しましょう。

内水による浸水 低地への浸水 地下への浸水

下水道などの排水能力を超える降雨により、雨を河川等に放流できない場合に発生する浸水のことです。

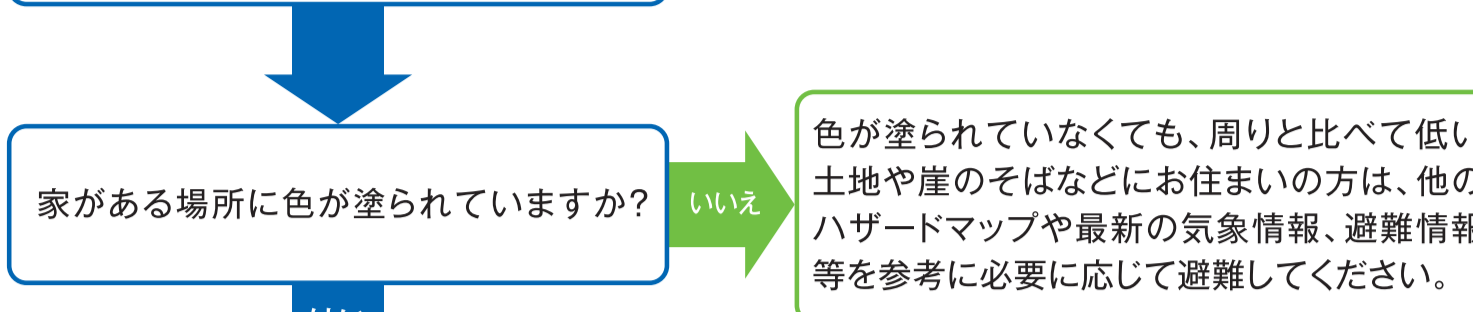
アンダーパスでは、車が水没する恐れがあります。不用意に通行してはいけません。

洪水や大雨時の地下施設は、外の状態が分からないので大変危険です。停電や、水圧でドアが開かなくなるなど、地下特有の危険も多いので、早めの避難を心がけましょう。

■ 避難行動を学ぶ

■ あなたがとるべき避難行動は？

洪水ハザードマップで自分の家があるところにあるか確認し、印をつけてみましょう。



災害の危険があるので、原則として、**立退き避難**（自宅の外に避難）が必要です。災害が発生する前に安全な場所へ避難しましょう！

余裕を持って**早めに避難**！

・避難所・親戚宅
・知人宅等

大雨の際、**全ての指定避難所が開設されるわけではありません**。避難所に避難する場合は、開設状況を市ホームページやニュース等で事前に確認しておきましょう。

★**大事なポイント!**

避難が遅れ、災害が発生・切迫している状況で立退き避難が危険な場合には、命の危険が迫っているので、自宅や近くの建物で少しでも浸水しにくい高い場所に避難するなど、直ちに身の安全を確保してください。（緊急安全確保）

出まらざる高いところへ避難!!

■ 防災情報を入手する

■ 災害が起こる前に「事前に」登録しよう

防災アプリ「ツナガル+（プラス）」

災害時の避難行動や避難生活を支援する防災アプリです。近くの避難所の位置や設備を一覧、地図で表示するほか、避難所へのルートを確認できます。また、電子掲示板などで利用者間はもちろん、市との情報共有もできます。

福岡市 ツナガル+ プラス 検索 無料

福岡市 LINE 公式アカウント 検索 無料

福岡市 防災メール 検索 無料

最新の気象状況、地震・津波情報、雨量・河川水位情報、土砂災害警戒情報、避難指示などの緊急情報を携帯電話やパソコンにメールで提供します。

登録方法

1. t-fukuoka-city@sg-njpへメールを送信（右上のコードもご利用いただけます）。数分後に登録のためのメールが送られてきます。
2. 受信したメールに記載されているURLにアクセスし、登録メール付録をしている場合は、受信可能に設定してください。URL付きメールを受信可能に設定してください。
3. 提供を希望する項目を選択し、登録完了

福岡市 防災気象情報 検索 無料

台風や集中豪雨から身を守るために、インターネットを通じて河川水位や降雨量などの防災気象情報を提供するサイトです。具体的な使用例は、「洪水から身を守る」をご覧ください。

いざという時に調べてみよう

テレビのデータ放送

災害時、テレビのリモコンのボタンを押して、気象情報や避難情報を入手できます。

災害時安全確認の方法

災害用伝言ダイヤル (171)

大規模な災害時に、固定電話、携帯電話を用いて安否情報（伝言）を音声で録音（登録）し、全国からその音声を再生（確認）することができます。

録音方法

1. 171に電話をかける
2. 録音する内容を録音する
3. 録音完了

再生方法

1. 171に電話をかける
2. 再生する内容を再生する
3. 再生完了

■ ハザードマップの使い方

ハザードマップは、地震や水害など身の回りの防災に役立つ情報をまとめた地図です。自宅などを確認し、災害が発生する前に表示されている内容を確認しておきましょう。

■ 自宅を見つけましょう!

ハザードマップで自宅、災害リスクを確認しましょう。

■ 適切な避難行動を理解しましょう!

ハザードマップで確認した情報を「避難行動を学ぶ」に記入し、あなたに必要な避難行動を理解しましょう。

■ 避難場所を決めましょう!

立ち退き避難が必要な場合は、避難場所を決めましょう。公民館など市の施設だけでなく、親戚や知人宅など、ご自身に合った避難場所を決めておきましょう。

■ 避難ルートを決めて、歩いてみましょう!

避難ルートを複数決めましょう。また、決めたルートを実際に歩いてみて、安全に避難できるかを確認しましょう。

■ 「マイ・タイムライン」を作成しておきましょう!

「マイ・タイムライン」とは、大雨や台風などの災害からあなたと家族を守るために、どのタイミングでどのような行動をとるべきかを決めておくものです。家族で話し合い、あらかじめ決めておくことで、いざという時に落ち着いて行動することができます。

（マイ・タイムライン作成シート）

「マイ・タイムライン」は、手書き（紙）のほか、PC・スマートフォンからも作成できます。詳細は、市ホームページをご確認ください。

福岡市 マイ・タイムライン 検索

■ 洪水から身を守る ~情報を理解しよう~

■ 洪水に関する情報を理解しよう

洪水発生のおそれがあるときは、避難情報や気象情報などに注意して早めの避難を心がける必要があります。洪水（降雨）に関する情報を理解して、避難する際に役立てましょう。

警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
状況	今後気象状況悪化のおそれ	気象状況悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生又は切迫
チェックすべき情報	天気予報 雨雲の進路 早期注意情報	雨の強さ 河川水位 洪水注意 予想雨量	高齢者等避難 避難指示	避難指示	緊急安全確保
情報収集	気象庁が発表します	福岡市が発令します	危険な場所から高齢者等は避難!	危険な場所から全員避難!	命の危険! 直ちに安全確保!
取るべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認	この間に 避難完了 するように行動しましょう		

★**大事なポイント!**

警戒レベルも避難情報も、必ずしもレベルの低い方から順に発令されるとは限りません。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合はご自身の判断で避難を始めてください。

■ 河川の水位に関する情報を理解しよう

河川の水位情報を市のホームページやテレビなどから入手し、避難する際に役立てましょう。

警戒レベル	水位の名称	水位の意味
レベル5	氾濫の発生	氾濫危険水位とは 洪水により家屋浸水等の被害を生じる氾濫の恐れがある水位。
レベル4	氾濫危険水位	避難判断水位とは 福岡市が高齢者等避難の発令を検討する水位。
レベル3	避難判断水位	氾濫注意水位とは 雨の降り方によっては、すでに氾濫危険水位にすぐに到達する恐れがあります。
レベル2	氾濫注意水位	水防団待機水位とは 水防団などの水防関係者が水防活動の準備を始める目安となる水位。
レベル1	水防団待機水位	

■ 河川の水位情報を入手しよう

ホームページ上の「福岡市防災気象情報ページ」や、気象庁のホームページから、河川の水位情報等の情報を入手できます。大雨の時は水位を確認し、避難行動を開始する目安としましょう。

「福岡市防災気象情報」から水位情報等入手

福岡市防災気象情報 検索

ホームページの画像（イメージ）

① 自宅付近の水位

② 自宅より上流の水位

河川の水位の監視方法

- ① 自宅付近の河川の水位を確認! 自宅付近の河川の水位を確認しましょう。河川の水位毎に、氾濫の危険度が区分されています。
- ② 自宅より上流の現在の雨量や河川の水位を確認! 上流で激しい雨が降ると、下流の水位が上昇することが予想されます。自宅より上流の雨量や水位を監視しましょう。

■ 安全に避難するための6ヶ条

- ① 浸水が始まる前に避難をしよう!
- ② 川や橋には近づかない!
- ③ 側溝やマンホールには注意!
- ④ お年寄りや障がいのある方等の避難を手助けを!
- ⑤ 車での避難はひかえよう!
- ⑥ 非常持ち出し品は最小限!

非常食を定期的に飲食し、使用した分を補充するという備蓄方法をローリングストックといいますが、非常食の消費期限を気にせず、常に必要な数量が手元に確保できます。

公的な備蓄は一般的なものが多く、非常食やアレルギー対応食品、粉ミルク・生理用品など、個人特有のものも備えておきましょう。

防災コラム

~防災に役立つ豆知識~

非常時の食料は備蓄していますか? 役立つ食料備蓄方法

~ローリングストックってなあに?~

おしえて!

想定最大規模降雨と計画規模降雨ってなあに?

この「福岡市洪水ハザードマップ」は、福岡県が公表している**想定最大規模降雨**による洪水浸水想定区域図を基に作成しています。他にも、**計画規模降雨**による洪水浸水想定区域図も作成・公表されています。

「質問! 想定最大規模降雨ってなんですか?」

想定最大規模降雨は、現時点で想定し得る最大規模の降雨を、過去の気象観測データ等から導き出した、発生頻度は極めて低い（1年間に発生する確率が1/1,000<0.1%）が、一度発生すると被害が極めて甚大となる恐れがある大雨のことで、降雨量は河川毎に異なります（想定される降雨量は地図に記載）。

ちなみに…1/1000 というのは…

「1,000年ごとに1回」という周期に発生する降雨を意味するものではなく、毎年0.1%の確率で発生する可能性がある降雨を意味しています。

「質問! 発生頻度が低い降雨でハザードマップをつくるの?」

最近、全国各地で水害による被害が発生し、被災者からは、「今まで経験したことがない」という言葉も聞かれます。このように雨の降り方が明らかに変化しているなか、最悪の事態にあっても、「少なくとも命を守る」ことを目標に、住民、企業、行政で危機感を共有し、それぞれが備えるために、想定最大規模降雨によるハザードマップの作成・周知が法律で義務付けられています。

ちなみに…平成29年九州北部豪雨のときは

福岡市で24時間降水量545.5mmの雨が降りました。

「質問! 計画規模降雨ってなあに? どうして公表するの?」

計画規模降雨は、「河川整備の目標とする降雨」のことで、河川の大きさや想定される被害の大きさを考慮して、河川毎に定められるものとされており、比較的发生頻度が低い（1年の間に発生する確率が1/30~1/100<1%~3%）降雨です。住民の皆様や企業等に、降雨の規模に応じて洪水リスクが異なることを適切に理解していただき、避難行動に役立てていただけるよう、計画規模降雨による浸水想定を公表しています。

福岡市では…

- 避難所は、想定最大規模による浸水想定区域で使用する可否を考えています。
- 避難情報は、計画規模降雨による浸水想定区域への発表を基本としますが、大雨特別警報が発表されるような大雨の際には、想定最大規模による浸水想定区域（このハザードマップ）を対象に発表します。